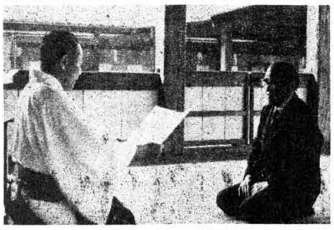
宗像

毎月十五日発行
発行所　宗像大社
宗像
福岡県宗像郡玄海町
電話 09406 ㊐1311代
定価 一年送料共 1000円

沖ノ島神宝奉納式

甦える秘宝

十一月三日、文化の日に沖ノ島神宝奉納式を斎行した。午前十一時に祭典が開始され奉納者の内田義真氏を初め岡崎敬九大教授他関係者が参列、晴天のなか盛大厳粛に祭典が執り行なわれた。



神宝を返納されたのは、福岡市中央区鳥飼二の五にお住いの内田義真さん（七十）。後述の目録に示したような「方格規矩鏡」・「三角縁神獣鏡」を初めとする一四七点の沖ノ島出土神宝類である。古くより日本民族の畏敬の地である神島沖ノ島は、現在「海の正倉院」とも称され、古代神道祭祀の祭場として広く一般の方々に知られている、祭祀遺跡より出土した神宝の数々は十万点を越え、当宗像大社宝物館に収蔵保管、現在多くの参拝者の方々に拝観されている。

近代社会においては、江戸時代黒田藩の沿岸警護番所があり（青柳種信著「防人日記」）、明治時代以後終戦まで陸・海軍の要塞ともなっていた。

宗像大社復興期成会の沖ノ島学術調査が昭和二十九年から昭和四十六年まで数度に渡り行なわれた。調査により発見された祭場と出土神宝は、四、五世紀代から九世末までの国家祭祀のありかたと変遷をたどる研究の一助として古代史の研究者に多大の賞賛を呼んでいる。

昭和二十九年に第一次調査を初める前は、要塞工事、護岸工事で人の行き来が激しく、その際神宝類も、いくらか離散しているという話は当社としても聞いていた。

内田氏は、考古学、古代史に関心を持たれ、日夜研究に励んでおられ郷土史研究者としても著名である。「十六、七年前に沖ノ島出土の鏡片だといって持ちこまれ以来、度々保管を委託され、いずれは所有者の宗像大社に返すが、時期がくるまで保管していた。」と懐古され今度返納された。

この様にして古代人に培かわれた、民族遺産の貴重な秘宝の散逸を、永い年月にわたり防いでこられた。氏の文化財保護に尽力された功績は大きく、当大社ならびに文化財関係者は、長期間の御苦労に頭が下ると共に、敬意の念をいだいてやみません。

◇奉納品目録◇

三角縁三神三獣鏡　二面
方格規矩鏡獣文鏡　一面
獣文縁夏子孫銘獣帯鏡　一面
四乳鏡文鏡　一面
変形獣帯鏡　一面
変形半鳳鏡　一面
変形格子目文鏡　一面
石釧　一点
車輪石　二点
子持勾玉　四点
硬玉勾玉　一点
ガラス製勾玉　一点
滑石製勾玉　一点
管玉（硬玉・碧玉）　二十五点
ガラス製小玉　二十六点
滑石製小玉　二点
滑石製丸玉　五十五点
滑石製小形円板　四点
アワビ貝製品　七点
貝製装飾品　一点
黒曜石製石鏃　二点
鉄製品　二点
鉄斧　一点
鉄刀　一点
鉄製刀子　二点
計　一四七点

◇御案内◇

年越の大祓式
―十二月三十一日
午後五時―

拝啓
歳末御多端の折柄貴台益々御健勝の趣き慶賀に存じ上げます。
扨て、恒例の年越大祓が近まって参りました。この神事は皆様方の心身の汚穢を祓い除け、無病息災・家運隆昌を祈念して、心身共に清々しい、新春を迎える神事であります。
本年も左記により、大祓神事を斎行致しますので皆様お誘い合せの上、御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

敬具

昭和五十四年十二月吉日

宗像大社宮司　葦津敬之

特別崇敬者　各位

――◇――

記

一、十二月三十一日、午後五時、大祓神事斎行
一、一月一日～十日
新年交通安全大祈願祭を斎行

論説　隠れ切支丹遺跡

――女子大生の天草探訪――

窪町幕府の厳信矢嗟が群雄の割拠争覇となり、わが民族の史上最も不幸な所謂戦国時代の出現を見たのであるが、この不安定な国情の中にキリスト教が伝来した。伝来というよりも、むしろ欧州各国から遠洋を越えて来航した宣教師と共に上陸したと言える。

一五四九年、天文十八年に到着した宣教師フランスコ・ザビエルが天主教伝来の立役者と、史家の多くが扱っているので、古く仏教諸教その他の大陸文化宗教の渡来の例に倣えば、天文十八年伝来と称えることになろう。

宣教師の東洋渡航には、布教の外に目的があったと考察される。政治的事的の目的があったとしても、それはいつの時代でも解明し難い。物資の探求なども絡んでいたかも知れない。

天草が切支丹の島と呼ばれる程盛んになったのは、永禄九年志岐へ、その三年後に河内浦へ共にアルメイダによって伝えられてからのことである。アルメイダは、ポルトガル人で、本渡市の城山公園にその記念像が建てられている。天草出身の学生が夏休暇を利用して現地を探訪した記録を、当人自らはじめて認識した郷土史として紹介する。

この学生に限ったことではないが、生まれた土地そして育まれた家庭のある郷里については、縁故のない人が精しく、自ら調査して知る、それが意外の驚きのようにレポートなどに表現される場合が少くないのも面白い。

島原の乱の中心人物天草四郎時貞も無論天草出身である。彼の出現を予言したと伝えられる宣教師マルコスラ等の遺跡は、今日も尚健在し難い点も多く、今後の研究調査が切に望まれる。

殊に一五九一年より七年まで設置された金属活字印刷出版の事業所であった天草学林は、その所在地に二説あって現在まだ確証づけられていない。即ち、本渡市丸尾乍正とする本渡説と、天草郡河内浦町とする河内浦説がそれである。この出版事業所は、平家物語、イソップ、羅甸日辞典など印刷した由で、後に幕末から明治にかけて誕生した宗教神道修復に十三派神道との関係に、浅からぬ意義を持っている。

河内浦町今富の矢管岳には、切支丹育成所跡があり、天草町大江野中に大江カトリック教会、河内浦町崎津中町に崎津カトリック教会、それぞれの遺跡がある。その外にも天草全域に亘って切支丹の遺跡が散在するが、学生の短時日の探訪では拾いつくすわけにはゆかない。

前述の天草学林では、大学らしい研究機関が設置され、ここで天草本と呼ばれた出版事業も行われていた。然し、天正十五年（一五八七年）に、豊臣秀吉によって切支丹禁制が施行され、慶長元年（一五九六）により迫害を受けるようになって、多くの殉教者を出すようになった。天草は寺沢氏が支配した慶長六年（一六〇一年）から、特にその番代として三年藤兵衛なる者が富岡城に来勤以来、信徒迫害は一層厳しくなり、殉教のためなら天主に救われるなら熱烈な信徒の減退は少くなかったのである。

信仰の強い反面、宗門改めや踏み絵を偽装で切り抜ける悪業も続けられた。役人はまた切支丹と睨んだ村里に重税をも課した。その怨苦の爆発が、島原の乱となる。乱後も取締りは厳しくなり、殉教のために天主に救われるなら加したようであるが、隠れ切支丹は明治六年の信仰の自由が許されるまで続いたのである。

明治九年大江に、同十一年崎津今富に於いて堂々と天主教復活を見、ガニエル神父ハルプ神父らを主軸とする布教活動は活気を呈してきたのである。現代でも天草が九州地方で最も基督教信仰が盛況と評されている。

ところで、戦国の末期に伝来して、年期を重ねること僅かで禁制の憂き目に会い、隠れ切支丹と呼ばれる悲境に苦悩を続けたが、信仰以外の面で、わが国の文化に大いに貢献した点を挙げて、論言を結ぶことする。

学生の探訪が研究心の上に効果があるのは当然だが、その研究成果の中に、西洋医学の発達、印刷技術の進歩、日本人に不得手の機械操作の熟練など、みな隠れ切支丹の恩恵であろう。

国である。宗像から政治屋は出てほしくない。

（月光）

阿蒙少言

近ぐ年来る年と繰り返される歳末、特に感慨はない。ただ年々歳々殖えてくる社会悪の中、特に嘘が目立つ。新聞テレビのニュースに見ても、政治経済面に主役的立場にある者の嘘が激増よく使われる嘘偽の筆頭が「国のため」●政治屋は嘘が上手にならないと出世しないのか。国家のため国民のためと、派利派略（その根底は私利私欲）以外に、片鱗も念頭に存在しない、言葉で巧みに粉飾する。寒心の至りである●次は申歳で、ごまかし屋の猿が各方面の舞台に登場することだろう。猿蟹合戦の猿かも、鬼ケ島の悪退治に旗揚げする桃太郎部隊に参加して、地味に活躍した犬猿の仲間であってほしい、正直な小心の狸と同列であってもよい。動物学者の研究成果にとれば、狸は人を騙すどころか、人に騙され易いと●「国のため」を真剣に考える場合は、根源は決死であらねばなるまい。死を決意して国のために起つ、そんな政治家実業家は勿論教育役人も感年にあるまい。言葉の安売りは、決算前のバーゲンセール同様に必要なのか●百余年前の幕末維新の変動期、多くの決死の志士が生命を捧げて国事に奔走した。それは嘘言でも偽装でもなく、ほんとうの国のためであった。特に九州では野村望東尼と女性が光る●わが宗像では、望東尼や高杉晋作等志士との交渉があった早川勇翁が忘れられない。先年赤間の人々の熱意が実のって、立派に翁の銅像が建立された。武丸の正助翁と共に宗像が生んだ偉傑である●早川翁の銅像の傍に、翁の「国のため」と詠んだ和歌が大きな石面に刻まれている、恥ながら建設委員会の要望に、少言子が書いた揮毫。身はよせ返す波にまかせての歌詞は、腹の底から出た献身愛

第三回　宗像大社歌会詠草

毎月一日／切　詠草到着順

吉留　高山　信子
薪たきて入る風呂には青い容祁も映ゆる湯にひたりつつ
津屋崎　内田　久美
橘もどきの枝もたわわに色づきて境内の秋は深まりゆくも
南郷　片山　雀林
百歳をはるか越へにし姑の膜もら嘗払い主家を護れり
名古屋　野崎　傳三
夕霧の流れ移りてくやかに玄武湖に浮く柴金山の月
宮田　片山　一世
露天堀の跡自然湖となり魚の住む秋日親しく人魚を釣る
神奈川　早川　フサ
帝劇の開くを待つ人それぞれに晩秋の夜をさざめき合えり
武丸　原田まつ代
正午過ぎの秋日射し入り呟くに縁近き机の位置かえて見つ
原町　八波　五月
月明り射す窓辺にて書きしとぞ徐思子兄の軍事郵便
箱崎　吉村　三郎
水脈引きて湾をいで行く海苔舟は音響交いて朝靄に消ゆ
鐘崎　村田　四郎
赤沙の無気味に朱きウネリ見て藻屑と消えし吾子を思いぬ
福間　廣渡　一寿軒
訪ね毎に友の動作のにぶくなり「手がいります」とその妻は言ふ
吉武　白木うめの
都会より来たれる友は宗像の真青の海を怖しと言へり
宗像　中村　幸
接触の少なき君子がコーヒーを入れてくれた夜更かすわれに
福間　二宮　末子
沖中津宮の御座船護りつつ大旗は風にはためく
田久立花　勇雄
山畑の土手に群れ咲くわらべの黄花鮮し露の滲みて
戸畑　田中ハツセ
地下二階降りて明るき右室は五年前のミノア文明
曲　天野トモエ
薮なせるこの章むら一面に薫の花咲く秋ううらなり
香椎　桜井　ツ子
水槽の金魚がつつく五百の鳴る午さがり診察を待つ
津丸　松尾　豊
庭隅に冬を咲きゐる八手の花に群れる密蜂なべてたけし
東郷　藤崎　辰子
浜風に騒ぎて止まぬ海紅豆の木蔭に来寄り化粧を直す
田熊　鷲津かつ代
草もみじ明るく照りぬひとときりしぐれしのちを渡るる日さに
田久小方　実
神宝館の完成近づく辺津宮剣道相撲と行事つらなる
池田　永富　琢
眼る客多きに黙せるバスガイド白き羊袋脱ぎて汗拭く
津屋崎　谷口　礼子
薬院のバスまつ道の寒の暮くはなやかなり舞台に顕つ
田島　吉武　武雄
満潮に海草もろも押し寄せて三年もんのいな飛び跳ねる
津丸　藤田　肇
この土に此の師に学びしかずかずの想い出あった除幕式けふ
武丸　原田　リノ
いつより納屋にこもりしチャボならむ鳴りし棲の声のしずまり
武丸立石　昇
石見でも左見でも山にもみじきらめく防長路を行く
田熊　今村　重刀
菩提寺の坂の欅は紅葉し幟はためくお会式今日は
田熊　吉田　直志
咲きかり花の波うつコスモスの目路はるかなる島影に佇ち
深田　中野　節子
大理石に落欠影り師の賜へるを初段試験のわが書に添しぬ
田熊　力丸　一郎
防人を終えた孫の航海の旅安かれを神に祈りぬ
武丸　立石ろせ乃
母よりも三十年を生きのびて何を為しか侮のみありて

神郡宗像の秋まつり

—各所で氏神祭盛大に斎行—

宮地嶽神社祭

—津屋崎町宮司—

全国的に商売繁昌の神様として有名な津屋崎町鎮座、宮地嶽神社の秋季大祭が九月二十一日斎行された。

当日は天候に恵まれ、当大社より神島権禰宜が奉幣使として参向午后一時から御神幸・同神社氏子中道楽奉仕のなか、延々一キロに及ぶ大名行列が行われ、同行列の祭主に、「思い出酒」で大ヒットを飛ばした歌手小林幸子が選ばれ、牛馬十五頭。同神社氏子総代・小中学生百余名の行列で、町内を約三時間かけて練り歩いた。

尚期間中境内では、露店も建ち、柔道大会等種々の神賑行事もあり、賑わった。

的原神社秋祭り

—福間町八並—

許斐山の麓、八並の里に鎮座する、宗像大社境外五摂社の一社である的原神社（旧村社、伊東聡宮司）秋の例大祭が、秋日和・日本晴れに恵まれた十月十二日午前十一時より伊東宮司奉仕、宗像大社献幣使参向の下、地元宮総代脇野十郎氏、八並区長中村貢氏外当番座代表古賀恒治氏、氏子崇敬者多数、また拝殿前に幼稚園児等も参列し厳かに斎行された。

御神前には海川山野の神饌が盛り沢山献供され、当社より幣帛が奉られたが、伊東宮司の打つ古流許斐太鼓の轟き亘る内で始まり、斎主祝詞奏上、玉串拝礼と式次第も滞りなく了え、続いて拝殿に於て、古式に則る御座が行われた。引続き一同退下し当番座代表古賀氏宅に於て直会が執り行なわれ、参列者を始め地区民一同出席し盛会に行なわれ、談笑の中に盛大に終了した。

織幡神社秋季大祭

—玄海町鐘崎—

十月一日、一日おくれの織幡神社秋季大祭が斎行された。九月三十日に例年斎行される大祭だが、今年は、三十日は風雨に見舞われ、当大社の一日秋季大祭海上御神幸の大パレードも取りやめになる海上模様であった。昨夜来の風雨で、神殿の屋根、境内は落葉が積り映えている。当社の御旅所の紅白幕、御神燈の大提燈も大きくゆれてまだ風強き中、午后六時より祭典が斎行された。永島宮司の祝詞も時々聞こえぬ風の強さである。花田総代長を始め地元総代関係者は白衣の袖をなびかせながら参列し、「子供相撲」で賑う子供達の声も風に消えがちである。しかし当神社は拝殿の大改築中で境内は活気に満ちており、強風の中に参列する人々や、神賑ひに興じる子供達にも、拝殿の完成を待ちわびる心が感じられた。来春の朝日輝く頃、新たなる拝殿の御屋根が鎮守の森の中に美しく映り輝く日を待ちながら、祭典を終了した。

縫殿神社の宮座

—津屋崎町奴山—

宗像郡内には、昔ながらに執り行われているいくつかの宮座がある。津屋崎町奴山縫殿神社の宮座もその一つである。

去る十月十日、縫殿神社の秋祭りが斎行された。当日は快晴、小高い山上の境内から眼下に黄金に波打つ稲穂の水田とその先に広がる玄界灘が遠望される。遠く松籟が聞えてきそうな風景である。

定刻、麓の奴山部落から三々五々村人達が苔むす石段を登って社殿に参集、縫殿神社祭神に縁りある宗像町の呉羽一族も参列、やがて縫殿神社永島宮司、宗像大社から大田権禰宜が参列して祭りは始められ、祝詞が奏せられ、敬虔に玉串が捧られて厳粛裏に終了した。この後、奴山公民館で宮座が催された宮座とは祭典後の祝宴であり直会である。この宮座は、昔からの定めが現在に於て堅く守られている。嘉永四年縫殿宮座記に依れば当番の施行すべき事項が揚げられ

一、神社に献備されたものは一切神職に託すること
一、汐井は当番者が奉献すること
一、太鼓を合図として宮座を始めること

等が記されている。宮座の献立は次の通り定められている。

一、燗酒（一合半）
一、あん餅（二合） 五ツ盛切
一、飯 焚めし
一、平 小鯛又はタクリ
一、吸物 肴切身
一、味噌汁 川魚
一、集メ煮 肴一切と野菜
一、ぬたえ 引付

燗酒の一合半というのも面白い献立の前に態々お茶なしと記してあり、酒肴で祝宴を円滑に運ぶ心得であろうか、吸物の他に味噌汁と記されているのが今に伝わる有名な泥鰌汁で、川魚則ち泥鰌である。泥鰌を焼き里芋、牛蒡、大根等と一緒に何時間もとろ火で煮込んだ味噌汁は美味で、何杯でもお替り可という。村人達はこれを何杯も食する。かくてお座は陽の傾く頃まで続けられるのである。

門司宗像神社祭

出光興産㈱門司油槽所内

去る十月十一日、午前十一時より出光興産（株）門司油槽所内に鎮座の宗像神社秋季大祭が、当社神職三名の奉仕のもと斎行された。

この社（やしろ）は、門司区新門司の広い油槽所内の一画に設けられた邸内社で、毎年春秋の二度当社より職員が出向し、祭典に奉仕している。

当日は、雲一つない秋晴れの好天に恵まれ、社殿の〆縄等は、新しく替えられ、美しく清掃された祭場は、一層すがすがしさを増した。社殿前に大川哲夫油槽所長外約三十名が参列した。

祭典は、午前十一時定刻に斎行され、修祓、壮重な祝詞奏上、そして敬虔な祈りをこめた玉串奉奠とつづき、厳粛、かつ盛大に行なわれた。

祭典終了後、油槽所内の一室で海をながめながら、直会の楽しい一時をすごした。午後一時すぎ、来春の祭典も、このような日和に恵まれることを念じつつ門司をあとにした。

第九回 西日本菊花大会

—好意の奉仕により
無事盛大裡に終了—

宗像大社菊花会主催の第九回西日本菊花大会は去る十一月一日より同二十四日迄の二十数日間に亘り、当大社神門前境内特設会場に於いて、九州・山口各県の代表的菊花三千鉢を陳列展示し開催された。

菊花大会期間は幸にも好天に恵まれ、参拝参観者も期間中で二十数万人にも達した。特に土・日・祭日は大駐車場を始め予備駐車場も満車状態となり、空所まちの車が県道添に長い列をつくる程で、御社頭は正月、秋の放生会並の賑いであった。

この盛大なる菊花大会は菊花製作出品者の努力もさることながら、各種団体及会社、篤志家の多大なる御協力と御援助により開催されており、先づ十月十四日、十八日、二十一日の三日間宗像町商工青年部（部長白木正英）七十名の作業奉仕により、展示ハウス一〇〇余棟が完成、菊花搬入の最終日の二十八日には宗像青年会議所（理事長松尾喜久男）会員二十数名が奉仕して続々と搬入される菊花を各展示ハウスへ運び飾付を行った。

尚菊花の搬入出は十月二十八日と十一月二十五日の両日集中的に行われ、県内外の運送会社＝（株）栗組、臼杵運送（株）、（株）山本工作所、龍栄運輸（有）、西鉄運輸（株）、久留米運送（株）、熊本通運（株）、西久大運送（株）、久田運送（株）、貞兼運送（株）、第一運送（株）、新宮運輸（株）、弘江組、第一建設興業（株）、宗像グリーンセンター（株）、赤星建材店、（有）平和産業、マルヨシ醬油（株）、西新運輸（有）、中村工務店、佐藤材木店、吉武造園、下司宏氏、森田盛幸氏、岩佐光二氏、吉武秀海氏＝各位の無償奉仕により三千余鉢の菊花が、延六十数台のトラックにより搬入出された。また、年々増加する菊花を陳列する展示ハウスも毎年増設されているが、これも当菊花会後援会＝出光興産（株）、新出光石油（株）、国松石材工業（有）、高向商会、交安亭、樋口産業（株）、梅月堂、楠建具、外＝により寄贈されている。

西日本菊花大会を開催するに当っては、この様に多くの方々の無償奉仕による、ご賛同とご協力のもとに開催されている。宗像大社菊花会関係者はもとより、出品参加の方々から深く感謝されている。

残筆しがらみ草紙 (36)

玄陽隠士

日本一の邪魔者

日本一の吉備団子なら、雉子までが鬼ケ島討伐に参加申出でをする程魅力的だが、邪魔者は同じ日本一でも敬遠される厄介物である。昨今の週刊誌にはキワモノ記事が競演し氾濫しているが、一昔前は月刊誌が主力で、キング現代文芸春秋婦人倶楽部などが大衆人気、書店は勿論駅の売店でまで色どりを添えていた。

その昔の月刊誌に、当時としてはキワモノの日本一の寸言的短評が載っていたのを想い出す。政治経済教育芸能各界の代表的人物が挙げられて、寸評はなるほどと同意したい刺し方であった。

ある浪人の巨頭は、日本一の邪魔者と決めつけられていた。権力金力腕力どれも歯牙にかけない泰然自若の容姿は、邪魔者と見る向が多かったろう。床の間に懸けられた憂国の文字軸を背景に、紋付袴で無言、何人が眼前に近づいても挨拶しても、全く応答なし。

今日の左翼も右翼もよく書くが、日本一の邪魔者には、原稿紙は無用であった、黙々端坐がその本領で、それが仕事でもあり、人生でもあったのである。

先程老妻が見続けているテレビの劇映画を、見るとはなしに気を引かれた処、鎌倉幕府創立、功臣や協力民族への恩賞などの経緯が展開していた。その後功臣の排斥誅滅が始められた。将軍頼朝の猜疑心は、義経を追い範頼を失い、遂に実権は尼将軍政子に移り次いでその背後の北条氏に占められるに至った。身命を賭して戦った三浦畠山などは既に邪魔者であった。邪魔者は消さねばならない。

お隣の中国には、十八史略なる歴史書がある。日本の漢文学生はテキストとして使わされる。その中の漢王朝成立後に「狡兎死して走狗烹らる」の一項が記憶に残る。狡兎は成立王朝が滅した敵、走狗は高祖のために忠勤を励んだ張良韓信ら功臣、走狗も鎌倉幕府創立に懸命奔走の功臣と同じ悲運を味わねばならなかった。みんな安定後の新舞台には、登場して貰いたくない邪魔者であった。

韓信にも張良にも、それぞれ忍苦鍛練の逸話がある。悪童どもの難題に低頭して股を潜る話は、わが国でお馴じみの赤穂浪士神崎興五郎が、東下りの途中馬方の無法に屈する大悟と似た大事に参劃する大丈夫の教訓と心得たい。

日本一のうまい団子も邪魔も嘘はないが、日本一の嘘つきをわが政界財界には多数抱えている。政治家と呼びたくない、政治屋が必適、政治的取引上の嘘を商売している連中にも驚き入る。

嘘つき政治屋がよく吐く言葉「派閥解消、是々非々主義、国利民福」などは、自已の嘘を売る偽装に過ぎない。派閥が解消している処に、何派会合と新聞ラジオのニュースになるのだから、政治屋どもの嘘も膏盲に入った病とも思える。権力の座についたら、私利私欲の追求が裏工作の本番で、国利民福は口先だけの道具である。

財政屋も嘘は平気で、急所を会計検査院に衝かれると部下の責任に転嫁して知らないと嘯く。貴金属を外国から密買して、検査院の指摘に合うと海外は安いからと理由づけて逃げる。海外密買の数倍に当る巨額の高級品を、国内のデパートから買っているのは知らぬ顔、納まりが悪くなると、手盛の退職金を懐中して去る。

これが社長とか専務とかの肩書を持つ紳士づらの平気な姿とあっては、生活に苦しむ下層国民の想像もしない別世界である。その上幹部に責任感からの自殺でもあると、悪鬼どもにとっては好都合の芝居がうてるわけである。

こんな政治屋や財界屋が、地球の上での悪業通りには行かぬのは地獄へ降った時であらう。閻魔庁の鬼の鉄棒には恐れ入るだろうと想像を逞しうしても、それも当るまい。こんどは赤鬼青鬼を色によって騙しにかかる。それもばれて万策尽きた結果、舌を抜かれる時だけ「痛い」と、日本一の悲鳴を吐く。この場の日本一は子供じみた話かな。

さて、政治経済の界域に限らず国家の現状を憂慮心痛する識者もある。世界的にも異変動転続く中に日本だけ何ら心痛のない筈がないのは当然だが、江戸時代の狂言作者の芸能的着眼が、音調や態度による効果的な技巧に集注したような傾向は回避すべきである。日本一の邪魔者ばかりであってよい。嘘や技巧のごまかし屋が消える方がよい。

こうの神湊（みなと） (92)

楠早鳥 作
福田長庵 画

水軍 （その一）

翌日、社務館の広間には上座に氏俊が座り、次に弾正と明継が相対し、評定衆十二名が左右に分れて席に着いた。

一同を見渡して氏俊が、昨日の弾正父子による操練をみて各々存じよりのところを申し述べよと命じ、まず当時者の弁から聞こうと明継をうながした。すすめにより明継が口を開いた。＜昨日の敗因は第一にそれがしの戦略の不手際に操練の不足、攻城軍があの大船を捨てたのは思いもつかぬことでした。また船上から爆竹を一かたまりにして投じ飛船を寄せつけぬ方法は鮮やか、とつおいつする中に潮の流れを巧みに利用され戦機を逸したのは不覚の至り。さすが千軍万馬の舅殿の釆配は見事なもの。＞と素直に敗因を挙げ口を閉じた。一々それにうなずいて氏俊は弾正に目を向けた。＜それがしは何分舟戦さのことは、とんと解らぬ故、船頭の許六に意見を求め戦略を立て申した。彼奴の侠気によりあの大船を乗り捨てることが出来たが、あの戦法をとるまでは、だいぶ躊躇いたした。飛船も面白いが、ただ岸近くなって戦いいどんで来たのは失敗であったろう、遠く洋上で大船の最も防備の薄い艫から攻撃をしかけられれば梶を失い操船がかなわぬ事と相成り戦さの帰趨は予測もつかぬ結果となったと思われます。＞と答えた弾正の弁を皮切りに、評定衆は氏俊の指名に応じて意見を述べたが、いずれも海上より攻めて来る敵に対しては草崎城を要めとした奴山、宮地嶽の丘陵地帯を防衛線とする従来の論をでるものはなかった。頃合いをみて氏俊が＜諸将の意見は大凡わかった。昨日の結果を見ても解る通り、海上で敵を捕捉し決戦をいどむことは極めて至難のわざである。しかし強力な水軍を保有すれば、まんざら勝てぬものでもない。とすると当家の防衛線は国境いの山嶽地帯におき必ず敵は陸から迎える態勢をとれば懐の深い形となる。陸で敗れれば海へ逃れ再起を計れるが、海で敗れればそれも叶うまい、例え田畠が戦さで荒廃しようとも海を掌握していれば交易によってこれを償うことができる。ここは家中一同力を合せ無敵の水軍を建設

してもらいたい。その為には永年貯えた財貨は惜しみなく費せ。＞と言い奉行に弾正をあて、その補佐を明継に命じ評定を散会した。

＜帰るか＞評定ののち早速水軍建設に必要な資料を集めている明継へ弾正が声をかけた。＜思いもかけぬ事になったがあれで良いのかも知れぬ。往時とは異なりこの宗像は南下する勢力と北上する勢力の接点に立たされた。この中にあってよく社稷を保全しようとすれば館主の言われるように懐の深い防衛態勢を敷く必要があろう。しかし舟というやつはあまりにも金がかかる、それに万一敗れれば水軍は再建が難しい。老人の僕にはこの仕事はいささか身にこたえるので、一切をそなたに任せるつもりでおるが思案を聞かせてくれぬか。＞

問われるままに明継は語った―宗像の将来は、大内との同盟の上になり立っているように見えるが対外交易を一手に掌握しようとする大内は何時の日か宗像の併呑を企てるであろう。その時は必ず海から寄せるに相違ない。陸路を攻めてくれば近年豊前方面に伸展のいちぢるしい大友と手を結び防げもするが、海ではそれが困難だ。とすると絶体に大内に勝る水軍を保有しなければならない。開戦と同時に赤間関の咽喉を扼する六連島の一角に拠点を構え敵を海峡に釘づけにするより外に勝ち目はない。また我にこの水軍があれば、彼も容易に戦は挑めまい、平和のための保償と思えば人命を損ずるわけではないし安いものかも知れぬ―やはり船は飛船にするかとの問いには＜当今、飛船に勝る船は諸国を見渡してもありますまい、あの快速を生かせば大内の凡ての湊を封鎖することも不可能ではありません、ただあの船の欠点は漕手が敵に身を曝し危険なことです。また四、五人の人数を操船だけに用いるのも無駄なこと、いま考えているのは櫓をやめて櫂にし、その上を楯で覆う飛船を考案中です。櫂を操るのは凡て兵を充てますのでこれには相当の調練が必要と思いますが、これができて始めて無敵の水軍と言えましょう。＞

一見なに気ない親子の語らいに見えるのか往還を通る人々が挨拶をして通り過ていった。

昭和五十四年度遷宮記念祭
各種神賑行事盛会に終了
―延べ二〇万人余の参拝者で
錦秋の御社頭大いに賑う―

錦秋の青空の下、国内では十一月三日の「文化の日」を中心として種々の文化祭行事が賑やかに繰り広げられていたが、当宗像大社の御社頭に於いても各祭典・諸行事が厳粛盛大に執り行なわれた。

当大社では、十月の秋の例大祭に続き、この十一月を最も記念すべき月として一大神賑行事を執り行なっている。去る昭和四十六年十一月十一・十二日に約四〇〇年振りに斎行された「宗像大社遷宮奉祝大祭」の重儀を記念してして、翌年より「遷宮記念祭」として恒例祭に加え、種々の神賑行事と共に奉祝の祭典を執り行っている。

祭典は、一日の月次祭、三日の文化祭、十二日の遷宮記念祭と献詠祭、十五日の月次祭と七五三祭が多数の氏子総代、崇敬者、家族連の一般参拝者が参列して厳粛裡に斎行された、中でも七五三祭は十五日の祭典を中心として八日から十八日迄行なわれ、郡内はもとより、関東・関西方面からの里帰で参拝される方々を含め県内外からの「子供の無病息災・幸福を願う」祈願参拝者は期間中五〇〇〇名の多きに達した。

一方、境内に於いては各種神賑行事が執り行なわれ、御社頭を大いに賑わすと共に参拝者に錦秋の一日を境内で憩う身心の安らぎの場として華やいだ中にも落ちついた雰囲気を供していた。

神賑行事の中で最初に開幕した第九回西日本菊花大会は、十一月一日から二十五四迄、既報の通り開催され、一日に審査会、十八日に表彰式が行なわれた。大会期間中の境内一帯は三〇〇〇余鉢の各種各色の菊花が放つ馥郁たる芳香につつまれ、終日まで鑑賞の人々で賑わわった。

次いで三日の文化の日には、奉納剣道大会と吟詠大会が開催された、剣道大会は本殿横広場に於いて開催され、早朝より郡内の少年少女の豆剣士と近効の高校生等約七〇〇名の選手が出場して、手に汗を握る白熱した試合が展開され応援の家族の人等の声援が広い境内一帯に夕刻まで木霊していた。

一方、吟詠大会は本殿横の宿衛舎に於いて開催され、清香吟社（本部熊本市）社中の会員一〇〇余名による詩吟・剣舞等が披露され、折から参拝の人々も、各出場者が吟する声量感溢れ、心の神随にふれる日本個有の詩吟に熱心に耳を傾むけていた。

又、二日から六日まで、第七回奉納盆栽展が祈願殿祈願者ロビーの特設会場に於いて、郡内愛好家秘蔵の盆栽一五〇余鉢が出品展示され開催された。

続いて、八日には郡内中学校一・二年生による柔道大会が午後より開会された、この日は相悪の雨模様となり会場を玄海中学校体育館に移し行なわれたが、郡内八中学校より五十余名の選手と二〇〇余名の応援のもと三時過ぎまで、秘術を尽した熱戦が繰り広げられた。

続いて十一日には、第三回宗像大社小倉百人一首かるた大会が、境内全建物を使用して開催された。大会には遠く関東・関西からの参加者もあり、昨年以上の充実した大会となった。会場となった各建物からは、読み手の流麗な大和言葉と、各選手の威勢のよい掛声が終日流れていた。又、本殿横境内に於いては、小林寺拳法宗像支部の会員による奉納演武式が午前十時より行なわれ、初心者から師範までの模範演武が披露され見物の参拝者から盛んな拍手を受けていた。

翌十二日には、第八回宗像大社献詠短歌大会が、清明殿大広間に於いて斯道関係者二〇〇余名出席のもと盛会裡に開催された。

続いて十八日には、宗像大社本因坊戦が宿衛舎に於いて郡内愛好家六十余名が出場して由緒ある宗像大社本因坊の栄誉を目指し、秘策を尽した、白熱した激戦が夕刻まで繰り広げられた。

かくして、当宗像大社の一大行事の一つである「遷宮記念祭」の各種神賑行事も二十五日の菊花大会の閉会を最後に遅滞なく終了したのである。

特に、本年は期間中天候には恵まれなかったが、延べ二〇数万人の参拝者で御社頭は賑わったのである。これは一編に、各行事の関係者各位の御理解と御協賛によるものであります。本紙上をもちまして厚く御礼を申し上げます。

第八回宗像大社
献詠短歌大会開催
―最優秀賞の福岡県知事賞に
田中秀樹氏（遠賀・水巻町）―

第八回宗像大社献詠短歌大会（主催＝宗像大社歌会・会長立石昇氏、後援＝宗像大社、毎日新聞社、協賛＝福岡県、福岡県教育委員会、宗像郡町村長会、玄海町教育委員会、宗像大社氏子会）が、錦秋の去る十一月十二日午前十時三十分より宗像大社清明殿の大広間に於いて、県内外より二〇〇余名の斯道関係者が参集して盛会に開催された。

大会に先立ち、先づ献詠神事が出席者一同参列して厳粛裡に執り行なわれた。神前には今大会の為に県内外各地の愛好家の方々の詠まれた力作の詠草原稿を供え、参加者の無病息災、歌道精進、斯道発展の祝詞が厳そかに奏上され、参加者を代表して立石昇大会々長の玉串拝礼に一同列拝して遅滞なく祭典を終了した。

引き続いて大会式次第に移り、先づ立石大会々長が主催者挨拶を行い、続いて来賓祝詞として宗像大社宮司葦津嘉之、同氏子会長中村清之、両氏からの祝詞の後、第八回大会の選者紹介が行なわれた。今大会は持田勝穂、中村法翠（以上福岡市）久原喜衛門、中西輝麿（以上北九州市）佐野とき江（筑後）各氏が選者として紹介された後、宗像大社の記録映画「神々はよみがえる」の上映があり、午前中の式次第を終了した。

昼食後、午后〇時三十分より相互評が行なわれた。この相互評は大会出品詠草を、出席者全員と選者によって批評し合うもので、この大会の特色となっている。相互評の司会として宗像大社歌会講師である中村五郎氏と同役員である永富藤氏が当り、午後四時迄で約三時間半に渉り熱心にお互の作品についての感想、批評を行い、選者の先生方の指導を受けていた。

次に今大会の入賞作品の選考方法説明と入賞歌の発表が大会々長、事務局よりあり表彰式が行なわれ、午後四時三十分定刻に総べての式次第が終了、茲に第八回大会は盛会成功裡に了えた。

尚、入賞作品並に各賞の受彰者名は左記の通りです（敬称略）

◇

【最優秀賞】
◇福岡県知事賞
田中秀樹　遠賀郡水巻町
（歌）はつ秋の野を渡りくる風のおと線工らは既に聴きゐむ

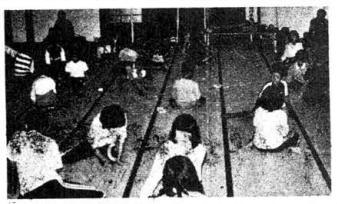
【優秀賞】
◇福岡県教育委員会賞
佐藤英一　北九州市門司区
（歌）飛び降も飛び乗ることも技として夜半の操車場（ヤード）に貸車をあやつる
◇毎日新聞社賞
香月静江　福岡市中央区
（歌）みどり濃きポプラ並木の道に入り日傘たためば陽の匂いする

【選者賞】（詠草略）
◇宗像大社賞
有田ゆり子　宗像郡宗像町
◇宗像郡町村長会賞
松尾豊　〃　福間町
◇玄海町教育委員会賞
鷲津かつ代　〃　宗像町
◇宗像大社歌会賞
向坊ミサヲ　〃
◇宗像大社氏子会長賞
塚本不二男　飯塚市

【互選賞】
◇毎日新聞社賞
一位　吉田ますみ　宗像・宗像
二位　吉田　和子　〃・〃
三位　小林万里子　〃・玄海
四位　土尾伊豆子　北九・門司
五位　力丸　澄子　宗像・玄海

【佳作】
小方実（宗像）磯谷関松（八幡西）葉山道子（玄海）中尾健吾（福岡南）塩川ハルコ（宗像）福間まさ子（戸畑）山中スサエ（玄海）占部ユキ子（玄海）今村重刀（宗像）田浦稔（玄海）

第三回宗像大社
小倉百人一首かるた大会
優勝・A級の部 友田瑞恵さん（下関南高）
B級の部 荒巻昌憲さん（九大）



当大社境内に西日本一の規模を誇る菊花大会が開催されている中、十一月十一日に、清明殿・斎館・宿衛舎の三会場に於て、第三回宗像大社小倉百人一首かるた大会（主催＝宗像大社、協力・九州かるた大会。後援＝玄海町教育委員会。全日本かるた協会・フクニチ新聞社・福岡東ロータリークラブ等）が盛大に開催された。

競技は上級者のA級から初心者のE級まで五階級（十一クラス）に分かれて、午前十時より午後五時過ぎまで参加選手二百五十名により熱戦が繰広げられた。

各競技会場とも吟者の声のみが流れ、選手達の真剣勝負による緊迫した雰囲気に、観戦者等はかるた競技の認識を新たにしたような表情だった。

尚各階級の入賞者は次の通りである。

◎A級（三段以上）
優勝　友田瑞恵（下関南高校）
二位　井口まり（福岡筑風会）
三位　山本靖子（下関南高校）
三位　平山千津子（福岡筑風会）

◎B級（初・二段）
優勝　荒巻昌憲（九州大学）
二位　増本ユミ（中村女子高校）
三位　河村美佐（古賀町）
三位　吉武厚司（古賀町）

◎C級（初段を目指す者）
優勝　松本晃一（九州大学）
二位　大川美子（福岡高校）
三位　登島敬子（福岡高校）
三位　山下善也（九州大学）

◎D級（一般の部）
優勝　西山紀子（九州大学）
二位　松尾明（九州大学）
三位　里城まゆみ（九州大学）
三位　榧渡和浩（九州大学）

◎D級（高校の部）
優勝　楢木ひろみ（福岡中央高校）
二位　梶井朋子（福岡高校）
三位　上田豊秋（福岡高校）
三位　勝治洋子（筑紫ケ丘高校）

◎D級（中学2・3年の部）
優勝　岡本淳子（下関山の田中学）
二位　福本安正（下関山の田中学）
三位　中川明人（下関山の田中学）
三位　水野稔一（下関山の田中学）

◎D級（中学一年の部）
優勝　鷲川盛（下関文洋中学）
二位　岡田笑子（下関文洋中学）
三位　中堀妃路美（下関文洋中学）
三位　友田尚子（下関文洋中学）

◎D級（小学六年の部）
優勝　稲田康代（吉塚小）
二位　粟田弘子（吉塚小）
三位　下田浩太郎（古賀町）
三位　渋木俊香（吉塚小）

◎D級（小学五年の部）
優勝　野坂千昌（吉塚小）
二位　飯島澄（吉塚小）
三位　野見山美枝（吉塚小）
三位　溝江聡子（吉塚小）

◎D級（小学四年以下の部）
優勝　林謙治（吉塚小）
二位　永野孝枝（吉塚小）
三位　古川正博（吉塚小）
三位　植村裕子（吉塚小）

◎E級（初心者チラシ取りの部）
石原由加（美野島小）
都島ようこ（美野島小）
八波智子（上西郷小）
野上智子（上西郷小）
揚野みゆき（吉塚小）
（敬称略）

奉納剣道大会
―郡内より七〇〇名の豆剣士等出場―

去る十一月三日、午前九時より恒例の遷宮記念祭奉納剣道大会が本殿脇の境内にて開催された。本年より小学生は各学年別の六段階とされ、また新たに女子の部として、小学生の部が三段階、中・高生の部が一段階新設された。

朝方より秋晴れの好天に恵まれ関係者をほっとさせたが、開会の時刻には約七百名の選手が整列し本殿に拝礼した。次いで花田支部長の挨拶、大社代表挨拶、審判の諸注意の後試合開始となった。

白熱した試合が展開されたが、とりわけ豆剣士の小学生選手には詰めかけた大勢の観衆より盛んな拍手がおくられた。

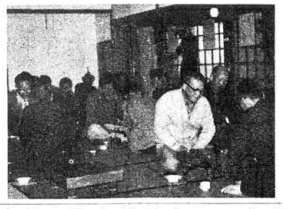
日頃は清閑に神気漂う境内もこの日ばかりは、砂を蹴たてて激しい気合と竹刀のぶっかり合う音が響き渡ったが平生の稽古の成果を競った熱戦は更に続き四時半に盛会裡に終了した。

成績は次の通り、

〈男子の部〉
▼小一の部
一位　瓜生　典史（東部教室）
二位　中村　浩彰（南郷教室）
三位　大村　哲平（河東教室）
▼小二の部
一位　永島　和久（玄海）
二位　田口　悟（岬）
三位　山路　秀敏（岬）
▼小三の部
一位　村山　正浩（玄海）
二位　綱脇　浩二（池野）
三位　山本　義雄（河東教室）
▼小四の部
一位　高向新太郎（玄海）
二位　貴福　哲也（岬）
三位　大庭　誠二（岬）
▼小五の部
一位　山路　清隆（崎）
二位　鎌田　勝徳（玄海）
三位　高木　淳（河東）
▼小六の部
一位　磯部　佳寿（玄海）
二位　田中　晴彦（河東）
三位　中村　正二（玄海）
▼中学の部
一位　坂木　清美（中央中）
二位　小沢　伸弥（中央中）
三位　木藤　伸啓（中央中）
▼高校・大学の部
一位　合原　幸晴（教育大）
二位　小山　義記（教育大）
三位　森　文浩（宗高）
▼一般の部
一位　稗田　茂人（岬）
二位　吉住　幸悦（玄海）
三位　池田　修（宗像署）

〈女子の部〉
▼小一～二の部
一位　須藤　幸子（南郷）
二位　池辺みのり（日の里西）
三位　花田　智代（河東）
▼小三～四の部
一位　権田　佳代（岬）
二位　森塚　智子（岬）
三位　藤本　由紀（東部）
▼小五～六の部
一位　吉永　美樹（赤間）
二位　中村　映美（東部）
三位　大坪　俊江（日の里西）
▼中学以上の部
一位　大石　展子（八大附属高校）
二位　石田　友恵（八大附属高校）
三位　権田　喜代（中央中）
（敬称略）

宗像大社本因坊戦
―宗像大社本因坊に
福永雅通五段（津屋崎）―



宗像郡内囲碁ファン待望の行事であり、当社遷宮記念祭の神賑行事として行われている宗像大社本因坊戦は、去る十一月十八日（日曜日）午前十時より宿衛舎に於て行われた。当日は生憎小雨模様で肌寒い天候であったが約七十名の選手が参加した。この大会の参加資格は宗像郡内に居住する有段者に限られ、その中で約五十名余の一般選手によるリーグ戦と、これとは別に自他共にその実力を認められた四・五段クラスの選手十六名によりトーナメントによって宗像大社本因坊の栄位が争われるものである。

境内に菊香薫る中、参加選手は先ず拝殿でお祓いを受け、清々しい気分で棋戦に臨んだ。会場内は互に顔見知りの人が多く和やかな雰囲気のうちに終始したが、この日に備えて練磨した日頃の成果を発揮せんものと各盤面熱戦が展開され、星のつぶし合いに一喜一憂の歓声が上った。

本因坊位の決勝戦は、今年は奇しくも津屋崎町同士の対戦となったが、共に五段の力を有する両選手の読みは深く、盤側に集って観戦する人々も勝敗の行方をはかりかね、固唾をのんでその帰趨を見守ったが、遂に凱歌は福永五段に上がり晴れの宗像大社本因坊の栄位に輝いた。表彰式では本因坊位の大トロフィーが養父禰宜より渡され、赤間誠宗像郡囲碁連盟会長より賞状賞品が授与されて会員の温い喝采を浴びた。

本因坊　五段　福永雅通
津屋崎町星ケ丘四ノ一〇二
二位　五段　西野照章
津屋崎町東町
三位　五段　高田良昭
宗像町日ノ里五丁目
（敬称略）

【訂正とお詫び】

本紙十一月号の「玄海少年剣道創立二十五周年記念大会」と「中近東文化センター竣工式」の文中で人名に誤字がありましたので左記の通り訂正して深くお詫び申し上げます。

木藤豊氏を木藤平蔵氏に訂正
金丸信氏を犬養　直氏に訂正
以上

宗像大社歌会俳句作品集（二〇三）

藤沢玄洋子
けぶり立つ社頭の千木や霜の朝

福岡入江柳江
としよりの日とて若やぐネックレス

名古屋野崎傳三
赤とんぼみの輪ひろがる神の池

福間廣渡一寿軒
堀り残し甘藷（いも）あちこちに冬枯るる

土穴八尋恒夫
早いものもう師走の風が吹き

田熊力丸一郎
薄紅葉わがなほざりの庭にて

海の寄物

(28)

軍艦出雲―ある巡洋艦の生涯 (八)

いしいいただし

一九一四年七月、大一次大戦が勃発した。わが国は八月二十三日対独宣戦布告。

当時出雲は「肥前」「浅間」と共にメキシコ沿岸にあったが、大戦勃発に、ドイツ艦を追って豪艦隊と連繋を保ちながら南下し、十二月上旬、パナマ方面に向って索敵活動をしたが、四年三月二十九日には横須賀に帰港した。大正四年四月三十日付の大阪朝日新聞には、軍艦出雲帰港の記事がみえる『一昨年十一月、在留民保護の為墨西哥に急航し爾来重要任務を帯び中南米方面警戒中の軍艦出雲は月を閲する事十八箇月、航程九千余浬を踏破して二十九日予定の如く無事横須賀に帰港セリ（中略）森山中将談として、本艦のホノルルを経て墨国マンザニオ港に到着せるは大正二年十二月二十二日にて翌年八月十日迄前後約八箇月間同国太平洋沿岸動乱地方の諸港を歴訪し、英米墨友邦の各艦と共に専ら在留民保護の任務に当り八月十五日サンチャゴ港に入港したるが、此の日は日本より独逸に最後通牒を送られる日なる事を新聞紙上にて散見せり（中略）八月一日帰港の筈なりし本艦は予定を変更して引続き中南米太平洋沿岸警備の重任に就く事となり、曽て米墨沿岸巡航中共に在留民保護の任務に服して日夕交歓密なりし独逸のニューポルヒ、ライプチッヒを敵として何時砲火を相見ゆるに至るやむ測り難ければ…（以下略）』

一方地中海ではドイツの無制限潜水艦作戦で、連合国艦船は大きな打撃を受けていた。大正六年、イギリス政府から、地中海へ駆逐艦一隊、喜望峰方面に巡洋艦二隻豪州とセイロン島間の航路保安のため巡洋艦四隻を巡邏の要請があった。同年二月出動作戦命令が出され、地中海へ第二特務艦隊（巡洋艦明石と第十、第十一駆逐艦隊）が派遣された。同年六月、出雲はシンガポール方面で英豪海運と協同作戦中だったが、第二特務艦隊に編入され、七月七日地中海マルタ島へ向った。

八月旗艦明石は四ケ月半の任務を終えて出雲と交代した。

この地中海における日本艦隊の活躍は目ざましく、紀修一郎著、日本海軍地中海遠征記（第一次世界大戦の隠れた戦史）原書房昭和五十四年発行の中で詳しく述べられている。同書によれば、この作戦成果は、『(1)特記すべき戦闘および救護回数三十六回、

右の内、大正六年五月四日、駆逐艦松、神鳥艦が英運送船トランシルバニア号を護送中、同船が電撃を蒙りたるとき、乗員三十二百名中三千名を救助したる功に依り英国国王ジョージ五世から横地第駆逐隊司令以下、松、神乗組将兵二十七名に対し、海軍将官をこ差遣のうえ勲章を授与された功績は特に顕著に認む。

(2)護送する各国軍隊および非戦闘員、概算総計七十五万以上。

(3)護送せし軍艦および運送船隻数

英国海軍軍艦および小艦艇二十一隻、運送船七百六十七隻

内訳

英国運送船六百二十三隻
仏国運送船壱百隻
伊国運送船十八隻

その他　二十六隻』

尚、出雲はマルタ島にあって、作戦行動は一回だけであった。

大正七年（一九一八）十一月十日には休戦条約が成立、四年間の戦争に終止符がうたれ、世界に平和がもどった。

出雲は十一月二十六日イギリスへ、十二月四日フリムス軍港へ、その後ポートランド港に、戦利品のドイツ潜水艦第〇一号を曳航している。イギリス、フランス、イタリア、ギリシア等を親善訪問し大正八年（一九一九）五月二十七日、日本海海戦の記念すべき日に第二十四駆逐隊と共に地中海を離れて祖国日本へむかった。七月二日、横須賀軍港へ凱旋した。

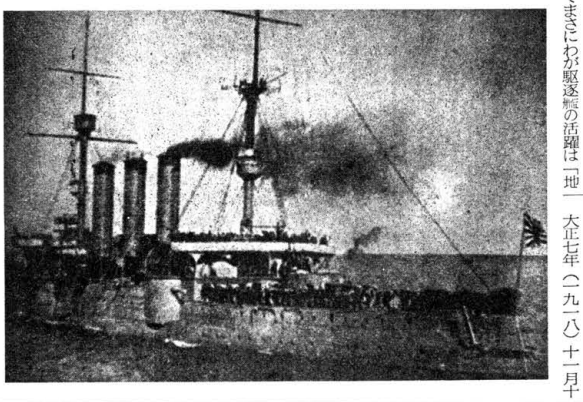
『七月九日には、横須賀軍港沖で大正天皇御臨幸のうえ、第一、第二特務艦隊の御観閲式が行われた。御召艦は特に凱旋にたばかりの軍艦出雲と定められ、御親閲の栄に浴する艦艇は、第一特務艦隊所属の軍艦「磐手」「千歳」、第二特務艦隊旗艦「出雲」軍艦「日進」第二十四駆逐隊所属駆逐艦「樫」「柳」「桧」「桃」…（紀脩一郎著前掲書）等の栄光の地中海遠征艦とドイツからの戦利潜水艦が勢ぞろいをした。

世界に平和が戻ると、出雲は練習艦として幹部候補生達を乗せ、世界周航の旅をはじめる。

大正十年（一九二一）八月から翌十一年四月、大正十五年（一九二六）、昭和三年（一九二八）、昭和五、六年（一九三〇、三一）である。

私が拾った木杯には、大正十一年、世界周航記念と記されている。当時の福岡日日新聞（現西日本新聞）を見ると、次のようにこの航海出発のことが報じられている。

註写真は「日本軍艦一〇〇選」野沢正、秋田書店より



◇正月授与品案内◇

〔一刀彫〕

九州各県内では唯一の木彫一刀彫守が本年も恒例によって当大社社頭で授与されます。

このお守は、無病息災、延命長寿を祈念したお守りとして、多くの参拝者から注文が寄せられます。特にこのお守を、十二個、つまり十二支集めて、一巡のお守りとする参拝者が多い為、授与は元旦の初日より二日の午前中で全て受けられてしまいます。

この一刀彫は、伊勢の銘木である楠木を、これも伊勢在住の名工が精魂をこめた一本のノミで仕上げた素朴な中にも気品のあるお守です。

初穂料　一体　二〇〇〇円

〔「えと守」〕

つげ彫えと守、このお守は十二支のお守りで、一刀彫とは違ってその人のえとに因んで受けられます。一刀彫と同様に招福と交通安全を願ったお守りです。

このお守は、杏葉（きょうよう）とう馬具の飾り金具（沖ノ島御神宝・国宝）を模した形に、それぞれのえとを刻んだ品のあるお守りです。

古来より馬は絶対に人間を踏まない等の縁起から、沖ノ島神宝の馬具にあやかって形ちどられました。

初穂料　五〇〇円

〔古いお札について〕

皆様の各御家庭の神棚には、多くのお札がお祭りされていることと存じます。これ等のお札は元来年度ごとに新しいお札を受けられてお祭り替えるのが恒例でありますが。

しかし古いお札を処分するのにお困りの御家庭が多いかと存じますそこで当社では、広い駐車場と、本殿前に古札納所を設けておりますので、これまでのお札をここにお納め下さい。

又交通安全のお守りも同様です。この古札は、新年の十三日、古札祭りを斎行の后当社境内にて焼却されます。

正月参拝御案内

宗像大社への正月参拝は、下記により御参拝されますと便利です。

【九州從貫道御利用の方へ】

◇佐賀・長崎・熊本方面からは、古賀インターで降り三号線白水峠交差点より宗像大社へ

◇本州・山口方面からは黒崎インターで降り（若宮インターで降りた場合は途中の道路が狭く、又、判りにくい）国道三号線に出て城山峠交差点より宗像大社へ

【国鉄御利用の方へ】

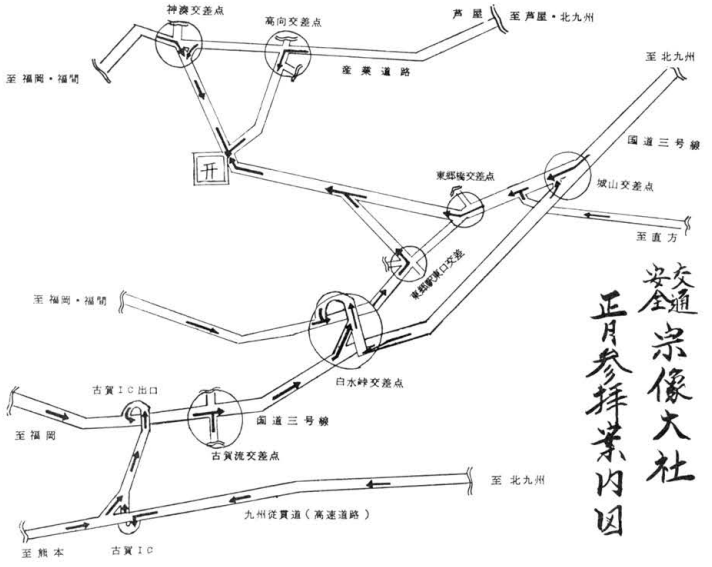
◇国鉄御利用の方は上下線とも東郷駅で下車されますと、徒歩約5分にて西鉄バス東郷駅東口停留所から、神湊経由福間方面行にて当社前下車（タクシーで約10分）

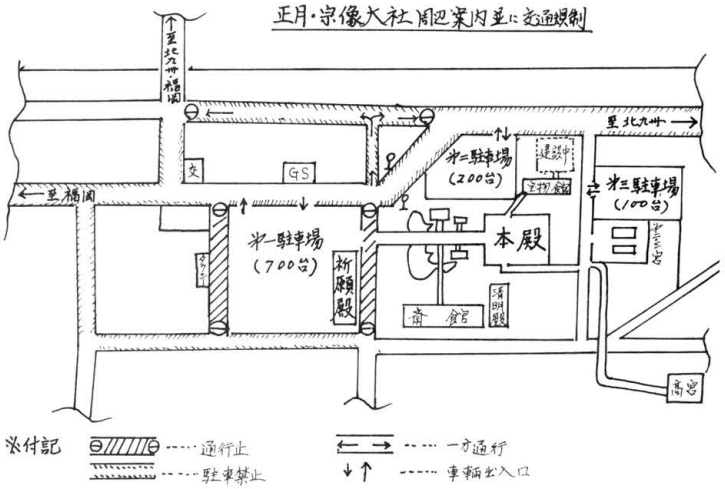
【バス御利用の方へ】

◇バス御利用の方は、急行・特急共宗像署前下車、神湊経由福間方面行にて当社前下車を御利用下さい。

※尚、詳細お問い合せの方は下記へご連絡下さい。

〒811-35　福岡県宗像郡玄海町田島　宗像大社々務所　TEL 09406 ② 1311代





◇一月祭典行事案内◇

◇辺津宮

一日　元旦祭　午前六時
二日　新年祭・産業文化振興祭　午前九時
三日　元始祭・家内安全祈願祭　午前九時
十日　恵比須祭　午前十一時
十三日　献米奉告祭　午前十一時
十五日　成人祭　午前十時

◇中津宮

一日　歳旦祭　午前六時
海運講社大祭　午前十一時
二日　弁天講社大祭　午前十一時
酒造祈願大祭　午前十一時
成人祭　午前十一時
三日　元始祭・大漁祈願祭　午前十一時

◇沖津宮

一日　歳旦祭
三日　元始祭
十五日　月次祭